



「CGコードにある経営理念とは」

コーポレートガバナンス・コード（CGコード）の基本原則は、1の「株主の権利・平等性の確保」～5の「株主との対話」まで5つの原則が定められています。企業がこれまで開示してきた情報を更に整理して報告することを求められたことになったのは、既にご存知のことと思います。他には資本政策や取締役会の独立性判断基準であるとか、経営計画の策定など、投資家の投資判断に必要な項目が並んでいます。その中で少々違った情報に思えるのが、基本原則2の原則2-1にある「経営理念」です。企業経営において当たり前とも言える「経営理念」をなぜわざわざ原則に挙げているのでしょうか。

先ず「経営理念」とは何でしょうか？辞書には「組織の存在意義や使命を、普遍的な形で表した基本的価値観の表明」とあります。これは、「会社や組織は何のために存在するのか、経営をどういう目的で、どのような形で行うことができるのか」ということを明文化したもので、企業の経営の基本であり、経営哲学とも言えるものです。この「経営理念」と近い考えに「社是」「社訓」「ビジョン」「クレド」等があります。それぞれの持つ意味は、微妙に違いますが最後にある「クレド」と、その他との違いについて説明します。

クレドとは、米国で提唱されたもので、ラテン語の「信条」、「志」という意味を表し、企業活動の拠り所としての価値観や行動規範を表すものです。敢えて古典的なラテン語を用いた理由は、「原点に戻る、基本理念に立ち返る」と言った意図があるようです。クレドは「理念」や「指針」とは違い、創業者や経営者が考えたものではなく主に従業員目線からの行動規範を

分かりやすく定めたものです。一方、経営理念は経営トップが事業を推し進めるためにベクトルを合わせる指針と言えるものです。なお、どちらが正しいかという問題ではありません。

クレドで有名なホテル「ザ・リッツ・カールトン」ではこのように定めています。

●ザ・リッツ・カールトンはお客様への心のこもったおもてなしと快適さを提供することをもっとも大切な使命とこころえています。

●私たちは、お客様に心あたたまる、くつろいだ、そして洗練された雰囲気を持ってお楽しみいただくために最高のパーソナル・サービスと施設を提供することをお約束します。

●ザ・リッツ・カールトンでお客様が経験されるもの、それは感覚を満たすこころよさ、満ち足りた幸福感そしてお客様が言葉にされない願望やニーズをも先読みしておこたえするサービスの心です。

投資家は、何によって企業価値が向上し成長を持続できるのかを見極めようとして対話を始めました。数字だけでは判断できない情報をこの「経営理念」や「クレド」から得ようとしているように思えます。大量生産、大量消費の時代が終わり「モノ」や「カネ」による充足感から価値観が大きく変わりました。投資家も投資判断の視点が変わりました。単年度あるいは今後数年間の利益を確保するというだけでは企業が今後生み出すリターンの信ぴょう性に欠けるため、投資家は長期的にキャッシュフローを生み出す企業の将来の目指す姿を知りたいのです。

（文責：ESG/統合報告研究室 上席研究員 大津 克彦）